



2016年（平成28年）

3月7日

月曜日

日刊

画像① 甌炉型（こしきろかた）
鑄銭釜（いせんがま）



お客様の住所をインタ
ーネットで確認中、たま
たま『鑄銭場（いせんば）』
という地名を見つけまし

鉄のふしぎ？ 博物館

■42

『鑄銭場（いせんば）』

画像② 精鉄四文銭
仙台藩



た。それは石巻市、J.R
仙石線、石巻駅の南正面
で、かなり大きな面積を
占めています。仙台藩は
直轄事業として、寛永通
宝や仙台通宝を鑄造しま
した、その銭座の跡地が
鑄銭場という名で残って
います。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと
交換しています。

「仙台藩の鑄銭事業は、
幕府の許可を得て寛永14
年（1637年）に栗原
郡三迫（みさこ）で始ま
りました。詳細は不明
です。その後も藩は、再

鹽竈（しおがま）神社
（石巻市）に、この鑄銭
場で使われていた釜が遺
されています。釜の名の
由来は、重ね合わせて米
なを蒸（む）す甌（こ
しき）に似ているところ
から、甌炉型と呼ばれる
ようになりました。日本
に現存する鑄銭釜甌炉
で、上・中・下三段共揃
って保存されているのは
これだけで、貴重な産業
遺産なのです。（画像①）
説明板には銅や鉄の溶解
工程の図と共に、以下の
文章が記載されていま
す。

「仙台藩の鑄銭事業は、
幕府の許可を得て寛永14
年（1637年）に栗原
郡三迫（みさこ）で始ま
りました。詳細は不明
です。その後も藩は、再

三に渉り幕府に鑄銭願
を出し、享保11年（17
26年）に領内産、銅の
みで鑄造（ちゅうぞう）
することを条件に許可さ
れました。この時、北上
川河口の水上交通の至便
な石巻に鑄銭場（いせん
ば）を設置し、享保13年
（1728年）から鑄造
を開始し明和年間（17
64年）には鉄銭も作
るようになり、明治維新
まで続きました。（以下



画像③ 鉄一文銭
仙台通宝

略）
藩内の銭貨不足解消を
理由に幕府より銅一文銭
の鑄造許可を受けた仙台
藩ですが、銅不足により
鉄一文銭の鑄造に転換し
ました。流通範囲を藩内
に限定された一文銭でし
たが、大量に生産された
一文銭は、他の地域にま
で流通し結果的に鉄一文
銭の相場を大きく下げて
しまいました。そのため
製造コストが上昇し、一
文銭を作るのに2文〜3
文もの費用がかかりま
す。問題解決のため、『精
鉄四文銭』が万延元年（1
861年）から発行され
るようになりました。幕
末に近くなると、幕府や
諸藩が無秩序に貨幣の発
行を行い、軽い銅銭や品
質の悪い鉄銭が大量に出
回るようになりました。

仙台藩以外にも盛岡藩、
会津藩、水戸藩、広島藩、

伊勢津藩などが鉄四文銭
を鑄造しています。（画像
②）
「撫角（なでかく）を
伊勢屋6枚入れてやり」
上は江戸時代の川柳の
句集中にある、けちな金
持ちを皮肉った句です。
撫角（なでかく）：鉄製の
一文銭『仙台通寶』
評判が悪く、銅銭の十分
の程度の価値しか認め
られていなかった。（画像
3）葬儀の時、死者のた
めに三途の川の渡し賃
（六文銭）として棺に入
れる習慣があった。それ
を持たない人が来れば、
奪衣婆（だつえば）が、
その衣服を奪い取ると言
われていました。ちなみ
にこの句は、仙台通宝が
発行された天明4年（1
784年）以降のもので
す。